

北信越支部への思い



ニイガタシバヤ代表

第31期・32期本部理事 澁谷 雄二

北信越支部設立45周年にあたり、お祝いを申し上げますとともにここに至るまで御尽力された方々に対し感謝させていただきます。永い間ありがとうございました。新潟支部の話になりますが、去る5月18日に逝去された金内仁氏に、この場を借り哀悼の意を述べさせていただきます。ありがとうございました。

45年を回顧してみますと、高度成長とバブルの開花、終演になると思います。バブルの華は実を結ぶことなく散ってしまいましたが、それは、太平洋戦争の終結から東西冷戦の始まり、そして崩壊、中国とロシアの台頭によるものと認識しています。国内的に観ると失われた20年であり、これがまだ続いているように観え案じております。

この中で私達が反省しなければならないことは、技術者の養成と技能者の育成です。古くからの親から子、徒弟制度で受け継ぐ慣習が継承できなかった。欧米流（実は日本式マニュアル）に流され、物質文化を追及し現在に至っている。

このことから、グローバルに対応できない技術者を育ててしまった。ODA や海外のプロジェクト、公開入札に挑戦されている方々には賛辞を呈したい。

今に何を期待するのか。それは、基礎学問の習得、基礎技術の深耕、グローバルな視点を養うことです。世界に70億の民、世界には、技術基準を構築してから物を造る国が沢山あります。これに対応できるエンジニアに成って欲しい。

小生 数少ない経験であるが、アメリカや中国、東南アジアを旅した経験がある。そこで感じたのは、情報の拠点、経済の中心、夢を実現できる国としてアメリカを上げたい。中国には文明の深さを、東南アジアではここはヨーロッパだと、サイパンでは近隣諸国の人の働く姿に逞しさを感じました。そして 帰国機内のテレビが夏の甲子園を映していた時に「ああ これが日本なんだ」と実感させられました。是非世界を飛び廻れる技術者に成って欲しい。高度成長、バブルで執った方向舵を真のエンジニアを目指し自己改革してください。

さて 今の私であるが、業界の方々に迷惑をお掛けしながら新潟の片隅で設備屋の真似事をしています。前段の内容と差がありますが、小生も物質文化に流されて行くべき道を違えたと一人と認識しています。但し 新潟に戻ることが出来、また皆様と会い見ることができた幸運には感謝しております。これからも新潟を拠点に動きますのでお役に立てれば幸いです。

最後になりますが、団塊世代の方々にエールを送ります。

北信越支部の益々の繁栄と会員各位の健康と活躍を祈念申し上げ設立45周年の挨拶とします。おめでとうございます。